

活動状況報告書（1月分）

学生留学コース 榎谷 賢太

スペインでの年越しは日本での年越しとは全く違うものでした。日本ではクリスマスムードから年越しムードに変わると同時に、スーパーマーケットではフライドチキンが蟹になり、シュトーレンがお寿司に、ケーキが鏡餅に代わって売られるようになりますが、一方でスペインのお正月はクリスマスの延長といったようなもので、スーパーに並ぶ食品もクリスマスの時とさほど変わらないように思えました。言い方を変えれば、スペインではクリスマスからお正月に入ったような雰囲気街中に漂っていました。それはおそらく日本ではクリスマスがキリスト教文化で、お正月が神道文化であり、イベントに応じた文化の切り替えが生じるのに対して、スペインでは年中キリスト教文化であるからでしょう。海外から日本のイベントを見直してみると、目まぐるしく異文化のイベントが年中立ち並んでおり、スーパーマーケットも大変だなと思います。

ブラジルから研究に来ていた Paula が母国に帰り、入れ替わるような形でトルコから研究者の Glau が来ました。3ヶ月ほど滞在するとのことでした。トルコは昨年度の6月に国際学会に参加した際に1週間ほど滞在しました。トルコ人は親日の人が多く、ご飯も美味しく、物価も安くて良い国でした。ただイスタンブール空港の物価はヨーロッパ水準なので買い物をする際は気をつけた方が良いです。先日イスタンブール空港のサブウェイで、サンドイッチのセットを買ったら4,500円もしてびっくりしました。ユーロ表記ではなく、トルコリラ表記で値段が書いていたため気づきませんでした。

この前バレンシアの街中を散策していたら新たな発見がありました。どうもバレンシアにはヨーロッパで一番狭い建物があるようです（写真1）。縦長で現在はアパートとして使用されているようでした。またスペイン発祥のお菓子であるチュロスを食べにきました（写真2）。スペインのチュロスは日本のチュロスよりも軽やかな感じで、パンっぽくないのが特徴です。軽いので次々と食べられてしまい、値段も写真のもので500円程度です。

写真1



写真2

